

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
スポーツとまなびのひろばSAIYO鴻池校		令和7年 2月 6日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	運動を集団療育で提供しているため、安全に活動ができるスペースを確保している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	人員配置基準に沿った配置を徹底している 個別対応が必要な児童には個別で対応できる人員を配置している	定員と職員数を適切に配置する
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	始まりの会などで本日の見通し、視覚情報から読み取れる情報提示や環境調整をしている	子ども達の特性に合わせた改善を常にしている
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日の清掃・消毒や感染症に留意した清潔感の維持に努めている	できている事は継続
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	面談室で個別の勉強やクールダウン、時には遊びの活動にも使用目的を伝え許可している	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	1	業務過多による影響が支援に支障がでないよう定期的に業務分担を行っている	職員全員と話し合う機会は作りにくい現状を伝え共有していく
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	保護者の意見を参考にできる事を改善していく	改善できる点を検討し進める
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	業務改善案は常に職員から意見を出しやすい関係を作っている	改善できる点を検討し進める
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	第三者評価は実施していない	必要があれば検討したい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	法定研修・療育研修（外部研修）・事業所内研修など年間を通して研修を実施している	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか。	8	0	アセスメントシートを活用し計画を立て、療育を提供している	継続
	13	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	職員とモニタリングを実施し、チームで目標を話し合って目標を設定している	継続
	14	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	パート職員にはアセスメントや計画を読み込んでもらい支援にあたる体制を作っている	継続
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	フォーマルなアセスメントを活用し、分析した結果を分かりやすくまとめている	継続
	16	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）には、児童発達支援（放課後等デイサービス）ガイドラインの「児童発達支援（放課後等デイサービス）の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	2		さらに活動内容等を見直し、地域支援にもつなげていきたい
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	療育研修や療育ミーティングを実施し、その中でみんなで話し合う体制を作っている	継続
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	療育ミーティングにて活動の振り返り、子ども達の様子の共有を実施している	継続

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成し、支援が行われているか。	7	1	集団活動が主になるが、個別配慮が必要な活動に関しては個別と分けて対応している	継続
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	始業ミーティングとしてパートを含め今日の療育内容と狙い、スタッフ配置（対応）などを共有している	継続
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	毎日の活動記録の記載と振り返りを実施している	継続
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	その日のうちに記録が取れるようポイントを絞り職員の負担の軽減も図っている	継続
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	モニタリングの実施予定を職員で共有し、予定に合わせて実施している	継続
	24	【放デイのみ】放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	行っている	継続
	25	【放デイのみ】こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	保育と支援の違いを徹底し、できる事は子どもの力で行うように徹底している	継続
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	保護者の要望に合わせ、児発管が学校などに 出向き関係機関の会議に参加している	より多くの支援者会議に参加できるよう事業所からも働きかけたい
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	相談員から情報を得ている、基本情報と発達検査などの資料を元としている	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	1	大学の教授と事例検討会を月に1度実施しアドバイズを受けている	継続
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等、または放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	0	支援級在籍の児童が多いため、日常学校内で通常クラスでの活動の場がある	
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時、療育後に電話連絡、定期面談などで伝える時間を作っている	継続
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	ペアトレは実施していながら、面談時に支援や対応について自宅でも般化できるようにしている	ペアトレが実施できるよう検討していきたい
	32	【児発事業所・児発センターのみ】併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	33	【児発事業所・児発センターのみ】就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				
	34	【児発センターのみ】地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	35	【児発センターのみ】質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	36	【児発センターのみ】（自立支援）協議会・こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	37	【放デイのみ】学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1	保護者様に間に挟み連絡調整が取れる体制を作っている	安全面と連絡トラブルがないようSNS等を活用したい
	38	【放デイのみ】就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3		サービス利用計画や支援者会議の活用
	39	【放デイのみ】学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	3	支援者会議などに参加した際にアセスメントや支援計画などの共有をしている	サービス利用計画や支援者会議の活用

	40	<u>【放デイのみ】</u> （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4	地域の部会からの依頼がない	情報を入手し参加したい
保 護 者 へ の 説 明 等	41	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	契約時や面談時にお伝えしている	より丁寧に説明する
	42	児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	子どもさんと保護者のニーズから目標を決め支援方針を検討している	継続
	43	「児童発達支援計画（放課後等デイサービス計画）」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	面談時に丁寧に説明し同意を得ている	継続
	44	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	主に面談時に保護者さまに困り事をお聞きする事と、平時より連絡相談ができる関係を作るよう工夫している	継続
	45	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	2	父母の会はないが、夏まつりや参観日などで保護者同士が自発的に話ができる場を提供している	保護者同士が参加できる機会を増やしたい
	46	こどもや保護者からの相談や苦情、申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や苦情、申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情や困り事を相談できるよう関りを作っている	情報伝達手段や伝えミスがないように取り組む
	47	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	SAIYO通信やインスタなどのSNSによる情報発信を行っている	継続
	48	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報保護に留意し、また保護者から同意を得て進めている	継続
	49	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	口頭だけの伝達ではなく、LINEなど保存できる文面にて伝えるようにしている	継続
	50	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	地域住民との関りはいまの所なし	検討する
	51	<u>【放デイのみ】</u> 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	面談時に相談にのっている	必要な時は随時対応できるようにしていく
非 常 時 等 の 対 応	52	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	契約時に保護者説明をしている、スタッフにはマニュアルを基に研修の機会等を通じて周知している	マニュアルを保護者に周知できる方法を検討し対応する
	53	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	年に2回の避難訓練の実施、施設全体で取り組む消防訓練を実施している	定めた計画を保護者にも伝える方法を検討し対応する
	54	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	2	契約時に情報として聞き取りをしている	情報の共有を職員間で行う
	55	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	契約時にアレルギー調査票をもとに確認し、飲食物を提供する際は対応している	情報の共有を職員間で行う
	56	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1	環境を調整する事と、子ども達同士の関わりにはルールや事前説明を行っている	ケガや事故などが起きないようヒヤリハットを基に対応していく
	57	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	十分にできているとは言い難い	保護者の就労状況等を踏まえ個別で対策をたてる必要がある
	58	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	大きな事故に繋がらないようヒヤリハットをだしていく工夫をしている	継続
	59	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	マニュアル、動画研修、虐待防止委員会の設置などを通し適切な紫煙を心がけている	継続
	60	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1	虐待防止委員会でやむを得ず身体拘束を行う場合について決定し、保護者様へ説明と同意を得ている	継続